

PERUVIAN ANDES

CAMP 2003

SANNABIKI DOJIN (OSAKA JAPAN)

「目的」にかえて

Peruvian Andes に対する思いは各人違う。

赤道下の Climbing , European Alps を凌駕する標高 , そして , 谷の奥まで入り込んだ , 人々の生活道を使ったアプローチ , それは Camino del Inca = インカの道である。インカで終焉を迎える独自の文明 , 昨日キャンプした場所が , 実は未発見の遺跡であるということも珍しくはない。

Peru という , 民族色豊かな , Deep な風土での Climbing は , 私の心をとらえて離さない。

今回我々の目指す山域ブランカ山群 Coldillera Blanca は Peruvian Andes の北部に位置し , 随一の規模を誇る。

最高峰はワスカラン Huascarán 6768m で , 南米大陸に 8000km にわたって連なる Andes 山脈の第 2 の高峰である (第 1 位はアコンカグア Aconcagua) 。

サンタクルス Santa Cruz , アルパマヨ Alpamayo , ワンドイ Huandoy , アルテソンラフ Artesonraju , チャクララフ Chacaraju , タウイラフ Taulliraju...魅力的な山は数多い。

我々が登山を予定している 7~8 月は乾期 (と呼ばれるのは , おおむね 4~10 月) にあたり , 天候は安定しており , 晴天が続く。ただし , 昨今の異常気象 + 地球温暖化は , 氷河を年々後退させ , 山によってはアプローチを困難なものにしている。北面の氷河の消耗は特に激しい。8 月になるとクレバスが大きく開いてくると地元ガイドが語っている。

Coldillera Blanca に限らず Peruvian Andes では面倒な登山申請の必要がなく , 登山料の支払いもない。必要なものは , 登山日数に応じた国立公園の入園料だけである。

Coldillera Blanca の実質上の登山のベースはワラス Huaraz の町である。ここではレンタル登山道具屋を含め , 燃料であるベンシーナ bencina , 食材など全てのものが揃う。長期滞在するホテルも格安で提供される。

Huaraz から思い思いの山への B.C.への道程は簡単である。

発達した交通手段 = コレクティーボ Colectivo = 乗合バスが , 申し訳ないほどの運賃で我々を麓の村まで運んでくれる。そこで , ケソ Queso = チーズとパン Pan を購入したら出発である。自分たちで荷を担ぐもよし , 近くの村人に声をかけてブーロ Burro = 口バを雇うのもよい。忘れてはいけないのが , アリエロ Arrieros = Donkey Driver のためのテントと食事。食事は「雇い主」である我々が作ることになる。カチンときてはいけない。コックを雇えないのは我々の貧乏登山のせいなのだから。ゴルディアンズ Gouardians = Tent Keeper を雇うこともある。張りっぱなしのテントを荒らされたパーティも多いと聞く。

とりとめもなく , 自分の経験もふまえて , 概略を書いてみた。

周囲を山に囲まれた素敵なキャンプ場にきたようなつもりで , 気楽に , そして大胆に , 感性のおもむくままの Climbing をしていきたいものだ。この山域はそれを可能にしてくれるはずだ。

目新しい登山形態は取らない。

けれど、登りたい山をあげておく。

Artesonraju6025m , Alpamayo5947m , Taulliraju5830m。

陽気に登ろう。

登山という「遊び」に人を顔かせる「目的」なんてあるはずもない。

また、今回の Climbing は、外部に対する自己主張の手段ではない。

各人が各人の思いで、Peruvian Andes に行くのである。その中で、Lost Arrow を探して欲しい。

Lost Arrow とは...秘宝でもなんでもない。おやじの忘れ物、過去に後一步で到達できなかったもの...と定義しておく。

サンナビキ同人・ペルーアンデスキャンプ'03 計画概要

1, 山域

PERUVIAN ANDES/CORDILLERA BLANCA

2, 日程

07/10 成田空港発 (梶山・土倉・若月)
07/10 LIMA/PERU 着 (現地時間)
07/12 夜行バスにてワラス (Huaraz) へ移動
07/13~ Huascarán にて順応登山
07/19 成田空港発 (吉田)
07/19 LIMA/PERU 着 (現地時間)
07/21 夜行バスにてワラス (Huaraz) へ移動
07/24 登山活動開始
07/25 帰国 (若月)
07/27 成田空港着 (若月)
08/20 登山活動終了
08/24 帰国 (梶山・土倉・吉田)
08/26 成田空港着

3, メンバー

L, 渉外	吉田和司*****
食料・写真	梶山正*****
会計・記録	土倉大明*****
装備	若月武治*****

4, 装備

国内冬季登攀に準ずる (別紙参照)

5, 食料

全て現地調達

6, 地図

別紙参照

7, 現地滞在先 (予定)

LIMA

Hotel San Antonio Abad
Ramon Ribeyro 301, Miraflores
TEL:447-6766/444-5455 FAX:446-4208
[URL:www.hotelsanantonioabad.com](http://www.hotelsanantonioabad.com)

E-mail:gfer@amauta.rcp.net.pe

HUARAZ

Oscar's Hostal

Jose de la Mar 624

TEL&FAX:722720

E-mail:marciocoronel@hotmail.com

8, 連絡先(1)*****

連絡先(2)*****

装備について

(1) 共同装備

装備	数量	備考
テント3人用 1	2	
ツェルト	1	
ガソリンコンロ 2	2	本体付属の燃料ボトルのみ持参
コッフェル4人用	1	+ 現地で大鍋を購入
コンロ台	2	
ロープ	3	8mm × 50M × 2 , 8.1mm × 60M × 1
ユマール	4	
アイススクリュウ	10	
ハンマーインアイスピトン	4	
ロックピトン	6	
捨て縄	5m	
医薬品	適量	抗生物質等
カメラ 3	2	35mm1 眼レフ, 交換レンズ, バッテリー
フィルム	適量	
ノートパソコン	1	

- 1 現地レンタルを避け, 日本より持参するものとする。
- 2 追加燃料ボトルは現地のペットボトルを利用する。
- 3 カメラは梶山の担当とする。

(2) 個人装備

装備	数量	備考
アイスアックス	1	
アイスバイル	1	
クランポン	1	
ストック	1~2	
ハーネス	1	
ヘルメット	1	
カラビナ	8	
ソウンスリング	数本	
確保器	1	
下降器	1	
ナイフ	1	
スコップ	1	
個人食器セット	1	
ヘッドランプ	1	

替電池	適量	現地の電池は何故か消耗が激しい(と感じた)
シュラフ	1	厳冬期用は不要
シュラフカバー	1	
マット	1	
ラバーソールシューズ	1	たまにはボルダークしましょう
アプローチシューズ	1	要る人だけ
ライター	2	
常備薬	適量	

服装は、日本の3月用のレイヤードでは暑く、5月用のレイヤードでは寒く感じられる。これを基準に適宜増減すること。手袋、靴下についても同様である。不必要なものとしては、高所帽、ミトン、ズボン下。あればうれしいものに、軽量の羽毛服があげられる。

ここに記載されていない一般生活装備などは日本国内の山行を基準にして各自調整すること。

アプローチはかなり暑いので半袖と薄手のパンツがいいだろう。ただし、アプのような皮膚を刺す虫がいるのでかなりいらつく。この虫は、日がかげったり、風が吹いてくるとたちどころにいなくなる。

(3) その他

地図はLIMAの国立地理協会で購入できるが概念図ととらえた方がいいほどの縮尺である。

LIMAのSouth American Explorers(Calle Piura 135, Miraflores, Lima Peru)
<http://www.saexplorers.org/>で現地情報が得られる。ただし、メンバーになる必要がある。私の会員証も期限切れ(更新可)である。

Huarazのカサ・デ・ギアやレンタル道具屋にも情報が掲示されている。

交通・生活について

会話は全てスペイン語を基本としている。英語が通じるのは都市部のホテルなど一部に限られる。

CONTINENTAL 航空は成田から HOUSTON を経由して LIMA/PERU に向かう。

HOUSTON では英語・スペイン語の両方でアナウンスされている。航空機内も同様だ。

(1) 首都 LIMA

中級のホテルでも日本から予約しておけば、空港に迎えの車が来ている。無料である。LIMA には深夜着なので、ホテル探しの労力を省く意味でも予約を入れておいた方がいいだろう。タクシーを利用する場合は、協定料金に従うことになる(と思う)。

午後にでも、Huaraz への長距離バスの予約に出かけるとよい。長距離バスは夜行のことが多いので、Huaraz 着は翌日となる(所要時間約8時間)。

LIMA 市内をあまりうろちょろすることもないと思うが、行き先の書かれたコレクティブボを利用すると安上がりである。あらかじめ降りる場所を行っておくと、知らせてくれる。

(2) Huaraz

Huaraz から登山口である各村へはコレクティブボを利用する。そこからは、徒歩、荷が多い場合はプーロ(ロバ)を雇うことになる。

Huaraz は、信濃大町より小さな市街地ぐらいの感覚だ。大きなメルカード mercardo (市場)があり、必要な食材は全てそろふ。

ホテルは一定期間借り上げておくのが便利だろう。長期利用の割引がある。さらに交渉次第で、ホテルに宿泊していない期間(登山をしている間)は半額にしてくれることもある。こうすれば登山に関係ない私物も放っておける。7月28日は独立記念日なのでその前後の日はホテルの確保に苦労する。

ホテル内の治安であるが、安ホテルでも玄関には24時間体制で係がいるので問題ない。以前ホテルの屋上でテントを干そうとして、

「盗まれないか？」

と聞いたところ、一笑にふされた。私の過去3度のPERU行きで物を盗まれたことはない。

(3) 食事

食事はチーフアと呼ばれるペルー風中国料理の店が多い。地元料理の店の定食も安く、困ることはない。Beer もうまい。安食堂でオヤジたちが雑談しながら杯を傾けている。コップの底に残った泡をいちいち床に捨てながら飲むのが作法らしい? アルコール御法度のタイメー氏にはインカコーラがある。昔懐かしい蜜柑水のような味わいである。

(4) 電気

電気は220V, 60hz。必要な電源アダプタを忘れないようにしたい。

(5) 生活物資

LIMA ではスーパーマーケットを利用するとよい。

Huaraz では mercado = 市場に行けば何でも揃う。

山 アプローチを中心に

- イシンカ Ishinca 5530m とケブラダ イシンカ = Quebrada Ishinca = イシンカ谷
Huaraz から 10 数キロで Paltay という村に着くが、この手前で東に入る車道がある。コレクティーボで行くところここで乗り換えなくては行けない。奥の村 Huillac, Collon へ向かうコレクティーボは数が少ないので、Huaraz からタクシーをチャーターしていくのが得策である。これだと、かなり奥まで入ってくれるので時間短縮にもなる。
車を降りてからは、イシンカ谷に沿って立派な道が続いている。1, 2 泊だけの順化山行なら Collon でブーロ burro を雇う必要もなからう。8 時間も歩けば、気持ちのよいベースキャンプにつく。北側にウルス Urus, 東側にトクララフ Tocllarafu, 南側にイシンカ Ishinca がある。
ベースの標高は約 4000m。ここから Ishinca は十分日帰り可能 (Urus 東峰はさらに短時間で可能) であるが、順化のためには、5000m 以上であえて 1 泊してもいいかもしれない。
- ケブラダ サンタクルス = Quebrada Santa Cruz = サンタクルス谷
Huaraz から 70km 弱でカラス Caraz。コレクティーボで一気に行くことができる。Caraz は大きな町で、メルカードも賑わっている。かさばる食材、パンのようなものはここで買えばよい。ここから、カシャパンパ Cashapampa までは未舗装の山の道をトラックで行くことになる。2 時間もゆられれば Cashapampa である。Huaraz を朝出て昼過ぎには着くが、burro の手配で手間取る (burro が他のパーティに利用されている = 間々ある) こともあり、小さな宿屋で泊まることになるかもしれない。
サンタクルス谷の素敵な道を 1 泊 2 日でゆうゆう Alpamayo のベースキャンプに昼過ぎには着く。ベースキャンプからは楽に 1 日で Huaraz まで帰ることができる。
Alpamayo のベースキャンプへ向かわずに直進すると、タウイラフ Taulliraju のベースキャンプである。
- ラグナ パロン = Laguna Pron = パロン湖
アルテソンラフ Artesonraju の南面へのアクセスで、ひじょうに単純なアプローチである。Caraz から車で入り、短いウォーキングで湖東端のキャンプサイトに着く。ツーリストのバスツアーも多い場所である。
- Huascarán へのアプローチ
Huaraz からのコレクティーボはマンコス Mancos で降りることになる。Mancos は小さな町であるが、メルカードは賑わっている。ここで乗り換えて、ムーショ Musho に着く。Musho は小さな村で、burro を獲得するには苦労するかもしれない。
ベースにはユーカリ林の素敵な道に行く。通常のベースより、もう少し登って、スノーラインぎりぎりの所まで行った方がいいだろう。静かなキャンプサイトが随所にある。

今回の山行に使用する主なアプローチのみ挙げてみた。

荷物の運搬について

- アリエロ Arrieros = Donkey Driver

自分で荷物を担いで行ってもいいが、大抵はブーロ Burro = ロバを雇うことになるだろう。

Burro は喋らないので交渉は Arrieros とすることになる。Burro は 1 頭 1 日\$5、Arrieros は 1 人 1 日\$10、burro は 1 頭で 30~40kg を運ぶと大抵のガイドブックには書いてあるが、20kg に抑えられることが多い。また、Burro の頭数が増える（5 頭以上？）と、複数の Arrieros が必要になってくる。

アプローチに要した日数分 + 帰りの分も含めて請求される（例：アプローチ 2 日 + 帰り 1 日 = 計 3 日分）。

入山当日 Burro が確保できなくて、翌日の予約確保をすることも多い。この場合は、前払いになるが、そのことでのトラブル（前払いしたにもかかわらず、翌日 Burro が来ない）にはまだ遭ったことがない。

なお、トレッキング中の Arrieros のテントと食事は雇い主の負担である。

- ゴルディアンズ Gouardians = Tent Keeper とコック Cooks

ベースキャンプでのトラブル（盗難）を避けるため Gouardians を雇うことが推奨されている。私も 1 度だけ雇った。その後は大胆になり全く雇わなかった。運が良かったのかもしれない。さいわい、盗難のトラブルには遭わなかったが、雇うにこしたことはないだろう。1 人 1 日\$10。

Arrieros 同様に、トレッキング中の Gouardians のテントと食事は雇い主の負担である。

Cooks は 1 人 1 日\$10~20。自前のでかい灯油ストーブを持っていることが多いが、今回は我々がガソリンストーブを 2 台（1 台はアプローチ、ベース用で、もう 1 台は行動用）持って行くことにする。

私の最初の Andes 行で、Arrieros と Gouardians の食事を自分たちが調理しているのに不思議な感触を得た。彼らはまるでお客さんのように食事を要求してきたからだ。しかし、よくよく考えてみると、Cooks を雇わない自分たちの貧乏山行が悪いのだと気づいた。

今回の山行では、Cooks（兼務 Gouardians）を雇うことにする。

山 登攀予定のルートについて

- アルパマヨ Alpamayo 5947m-SW face

手っ取り早く Ferrari-route を登ることにするが、'96 年に北面の氷河から眺めたところ、順番待ち？の人間が延々列をなしていた。'97 年は 5300m のコルに Camp を張ったが、降り続く雪で 1 度も姿を見ることができなかった。アプローチですれ違う多くのパーティもラッセルの辛さや、1 週間滞在して山を望めたのはたったの 10 分だったなどと嘆いていた。

French-direct-route も候補に挙げておきたい。

5300m の Camp からの標高差はたかだか 700m 弱。駆け登ろう。

- アルテソンラフ Artesonraju6025m-S face
未定。Normal はあまりにも易しいか？
- タウイラフ Taulliraju5830m-S fase
Quebec variation が素晴らしい。C.Fowler variation も捨て難い。
- ワンドイ Huandoy Norte6395m-NE face
時間があったら登ることにする。ベースキャンプまでは徒歩 2 時間と短い。

素敵な山はまだまだある。現地で一目惚れした山に登るのも、今回の山行の趣旨にあっているだろう。

食料について

食料は全て現地調達とする。Huaraz の市場では何でも揃う。

過去のペルー行で、米は何度か炊いたが、うまくいかなかった（圧力釜は使用していない）。メルカードに山と売られているイタリア風の乾麺は旨くない。

余談ながら、Huaraz に多いイタリア料理店はどれもまずい。ピザの旨い店はある。時折、申し訳なさそうに

「あいにくモッツアレラしかありませんが...」

とくる。そう、普段はリヤマかアルパカのチーズなのだろう？おそらく。

中国風の麺で地元ではタヤリンと呼ばれているものが旨い。食堂で【タヤリンサルタード】と頼めば、焼きそばが出てくる！この半生タヤリンを茹で、トマト・オニオン・ペッパー・アホ（ガーリック）と和えれば酸味が食を増す。山では殆どこればかり食っていた。

パンは1番安い物が塩味が効いていて、ケソ（チーズ）を挟んでよし、ハムを挟んでよし。少し高級そうなパンは、甘みが邪魔をして旨くない。

ビーノ（ワイン）はチリ・アルゼンチン産が多い。

セルベッサ（Beer）は4種類ぐらい売られている。中でもクスケーニャが旨いが、Huaraz ではあまり見かけない。

野菜は、メルカードで購入する。どれもキロ売りで、驚くほど安い値段で供給される。

インスタントラーメンも各種売られている（多くは Made in U.S.A.）。

Mineral Water はシンガスと言えれば炭酸を含んでいない物、コンガスと言えれば炭酸水で、各種手に入る。

メルカードで次の山行きに思いをはせながら、食料を購入するのも楽しいだろう。

余談だが、メルカードの食堂は安くて旨い。